



社協更木だより

第10号
平成15年2月15日発行
編集・発行
各務原市社会福祉協議会
更木支部編集委員会

「黄金十枚これ国宝にあらず。一隅を照らす人材これ国宝」と伝教大師の

問題はその明るさだ。自分の足許さえはつきりしないうす暗い明るさあれば、明るく光り輝いて、周辺の人々に多大な恩恵を与えるものもある。

人生は一本のローソクと同じ、オギヤーと生まれた時に、命のローソクは点火され、起きていようと、寝ていようと、働いていようと、遊んでいようと、そのローソクは燃え続ける、そして墓場へ入るとき燃え尽きる。



有名な詩人相田みつを「時」という詩に「アノネ時は金なりなんていうけれどね 時はいのちだよ『いま』というこの時は自分の一生の中の 一しゅんだからね」とある。人生それは「いのち」であり、それは「時間」ということになる。真実ではあるが、しかし味気のない話だ。

教えにある。また人生は機を織るのと同じとある。オギヤーと生まれてから死ぬまでの一生の間に、人それぞれの機を織り続ける。

更木支部長 大里重雄

人生いろいろ

社会的に実用的な木綿のようなものあれば、誰からも愛用される絹羽二重のようなものもあり、さらには金銀綾錦、たとえ丈は短くても「価千金」と珍重されるものもある。反対に誰からも嫌われる、うす汚いボロ雑布のようなものもある。これらは社会的な地位身分、職業、財産、性別等一切関係ない話である。人それぞれの日頃の心掛次第といえ

さてあなたの人生は…



介護保険

住宅改修費用の支給

対象：要支援・要介護認定を受けた方

心身の機能が低下している高齢者の自宅での生活支援や、家庭で介護する人の負担を軽減するために、手すりの取り付けや段差の解消などの小規模な住宅改修を行う場合には、その費用の9割分(18万円が限度)が住宅改修費として支給されます。※支給額は、同一住宅で18万円が限度です。ただし、転居した場合は、改めて住宅改修費の支給を受けられます。

支給対象となる住宅改修

- ① 手すりの取り付け
- ② 段差の解消
- ③ 滑りの防止や、移動を円滑にするための床または通路面の材料の変更
- ④ 引戸などへの扉の取り替え
- ⑤ 洋式便所などへの便器の取り替え

お問い合わせ

各務原市役所 高齢福祉課 保険給付係

〒504-8555 各務原市那加桜町1-69
電話 0583-83-1778 FAX 0583-83-6365

福祉座談会(近隣ケアグループ)の開催



十二月十一日の夜、稲羽西福祉センターにおいて、更木支部で活動している近隣ケアグループの座談会を開催しました。今まで近隣ケアグループは、自分が住んでいる町内の人としか交流はなかった。それで今回更木支部の近隣ケアグループに集合してもらい、それぞれの町内における活動状況を発表し合って交流を深め、将来のより良い活動に役立ててもらおうとの目的でした。

友愛訪問をはじめ、それぞれのアイデアを生かし、多彩な行事を実施していました。招待される人の一番の楽しみは食事です。そのために、おはぎの会・ごへいもちの会・おすしの会等で手作りの味に、それぞれ腕前を振っているようです。次に行事の実施時期です。お正月、お祭、七夕、クリスマス、誕生会等それぞれに趣好をこらし、またそれにふさわしいプレゼントを用意されたようです。その他、余興として、歌・踊り・マジック・体操等、さらには会場を屋外に移し、パターゴルフ・グラウンドゴルフ等を実施したところもありました。

なおこれらの経費は、寄付金・助成金・会費等でまかなっています。担当者の腕前にかかっているようです。最後の問題点となったのは、行事に参加しない人、ケアの目に届かない人、家族のボロをかくそうとしている家庭等に対して、どのようにして愛の手をさし伸べるか、という点でした。

いきいきサロン 士筆会

代表者 中村篤子



私達の住む地域は比較的新しいので、発足した頃には、近隣ケアグループの活動が必要なのか、何をしたらいいのか、全く、手さぐりの状態でした。当時高齢者(六十五歳以上)の方に呼びかけて、年一、二回の親睦会(食事会)訪問をする事位だったので、にも、協力をお願いして来ました。二年前からは、隔月に会を持つ事が出来るようになり、参加者、グループ員の協力あって、今年からは毎月開催出来るようになりました。内容も豊富になり、歌には楽器も取り入れ、ゲーム等の遊具も自分達で作ったりと、ふれあいを深めております。

今年、特に好評だったのは、パターゴルフ大会でした。今では参加者、グループ員双方が、その日を楽しみに待つようになり、この地域の進歩だと思いき喜んでおります。途中三年間は、ブランクにしましたが、近隣ケアグループ活動に関わって来て良かったと思っています。願望としては、地域外に住む別居の高齢者の方にも当該地域に滞在される時には、気軽に参加していただけたらと思います。



三世代ふれあい広場

大野町子供会育成 宮崎美智代

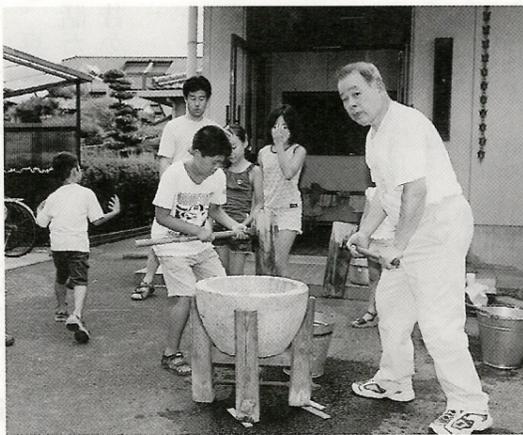
猛暑が続く八月十一日、大野町公民館において、「三世代ふれあい広場」が催されました。

お盆前の日曜日で子供が集まるの心配でしたが、未就学児も含め四十六人の子供達が参加し、自治会をはじめ、近隣ケアグループ、老人会の皆さんのご尽力により、大変にぎやかで楽しい集まりとなりました。

自治会長さんの挨拶の後、五人一組となって輪投げゲームを行いました。大人も子供も真剣な表情で輪投げ、高得点に入ると、歓声や拍手があちらこちらで聞かれ、なかなか白熱したゲームが繰り広げられました。熱気のもつた会場を出て、ジューズやすいかで休憩をとる姿も見られました。

輪投げを終えると、今度はおもちゃつきです。高学年の子は一人で、低学年の子は二人で杵を持ち、お餅をつかせてもらいました。

リズムカルにはいきませんが、中には大人の方と交互につき合う頼



もしも高学年の児童の姿もありました。

家庭ではできない貴重な体験ができ、子供達も満足だったのではないのでしょうか。このお餅をあんこ餅ときなこ餅にしてもいい、みんなでおいしくいただきました。

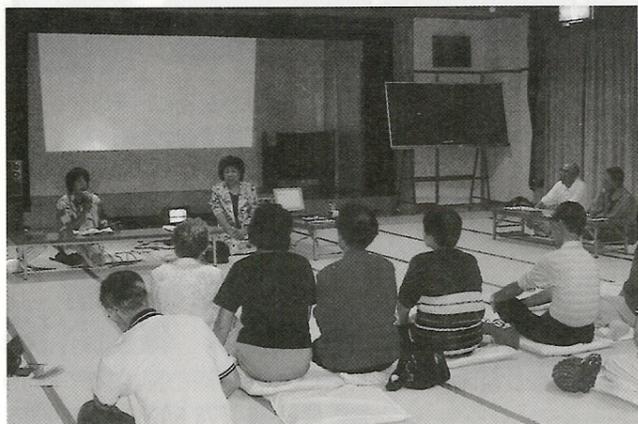
今年で六回目を迎えたこの催しですが、「個の時代」といわれる今こそ、家族として町の人達の絆を深めるために、これからも続けていきたいよう願っています。

福祉座談会 (ヘルパー)の開催

九月十八日夜、稲羽西福祉センターにおいて、ヘルパーさんに関連する、福祉座談会を開催いたしました。最初講師の三和さんから、高齢化が進み、病気・ケガなどで自分の体が自由に動かなくなつた場合、家族に痴呆の症状がでた場合、ヘルパーさんの介護を受けるには、どのような手続をすればよいか、わかりやすく説明がありました。

それから三人のヘルパーさんが、それぞれ経験した介護のいろいろなケースの発表がありました。例えば、食事を済ませたばかりなのに、食事の請求をする人、暑い夏なのに何枚もの重ね着をする人の相手をしたり、家族でもいやなおむつ

の交換をするなど、一人一人異なつた症状に頭を働かせ臨機応変の対応が必要とのことでした。しかし誠心誠意努力すれば、奉仕の心は相手に通ずるものです。時には介護した老婆から、手を合わされて



「貴女の顔が阿弥陀様に見える」といわれたこともありますとのことでした。

出席した者は、ヘルパーさんの尊い行動ややさしい思いやりに、深く感じ入ったひとときでした。

つつじ苑の慰問

更木支部で唯一の福祉施設である「つつじ苑」を十一月九日午後、更木支部を代表して大里支部長、尾関・杉山民生委員の三人が訪問して、慰問品を事務長さんにお渡ししました。事務長さんは苑の内容を簡単に説明した後苑内を案内して下さいました。

苑は平屋建ですが全体に広々とした感じで中心にあたる直線の廊下は百米あるそうです。

居住部屋は一人〜四人部屋まであって、本人の希望によって、それぞれ入居していました。

掃除は専門の係員によって毎日行われているようで、清潔整頓が行き届いていました。

集会所の壁には、年齢による番付表が張り出されていて、横綱は九十八才のお婆ちゃん以下大関、関脇等三役はほとんど女性の名前で、男性の名前は少ないことから、女性は男性より長生することが一目でわかりました。

入苑者の外出は簡単には出来ませんが、苑内の行動は自由とのこと、集会所に集ってテレビを見ているグループ、テーブルを囲んでオシヤベリを楽しんでいるグループ、昼寝している人、あちこち徘徊している人等さまざまな姿でした。

看護師さんが常に三人常駐していて常に入居者の健康状態をチェックして、異状があれば、医師に連絡するシステムが整っている。その他に介護士さんが二十数名もいて、毎日面倒をみているとのことでした。

その他に、このつつじ苑へ年間延四千人からのボランティアの人々が奉仕活動に来られるとのことでした。

つつじ苑の現在長

期入苑者は六十名ぐらい、その他デイサービス(日帰りの介護者)十五人〜二十人位で、苑の車二台で送り迎えをしているようで、介護者を抱えた家族にとっては、有難い施設だと感じました。



地震防災講演会

三井北町一丁目 すみれ会 近隣ケア 徳田文江

山々の紅葉も真っ盛りの十一月十七日(日)満七十歳以上の高齢者十八名を集会場に招いて、恒例となつてのお楽しみ会をおこないました。

最近テレビや新聞で東海地震が起きると報じられている事から、市の防災課にお願いして「地震防災講演会」を開催しました。

高齢者だけでなく一人でも多くの方に聞いて頂くため、自治会の方にも呼び掛け二十二名参加して頂きました。

「地震に対して備えは大丈夫ですか。」と安心に暮すためにのテーマで、阪神大震災(震度七)の教訓を生かしたビデオ



オを見たり、東海地震のお話を聞いたりしました。

その時皆さんの表情は真剣そのものでした。

参加者の方たちに、いいお話が聞けてよかったですねと喜んで頂きました。

地震に対する防災意識の高揚に役立つと共に、高齢者の方も備えあれば安心してすごして頂けると思われました。



社協更木だより

第11号
平成15年7月31日発行
編集・発行
各務原市社会福祉協議会
更木支部編集委員会

六月十六日午後七時から、稲羽西福祉センターで、生活支援センターさくら代表の三和ゆきさんを講師として講習会を開きました。つづいてホームヘルパーさん三人の現場報告、最後に三和皮フ科三和敏夫先生による、前立腺ガンに関するお話でした。

三和講師の話では、各務原市内の介護保険適用者の状況は施設利用者五〇四人、在宅利用者一、二三四人

世界に生きて
いる動物の中
で、自分の意思
を言葉にして口
から相手に伝え
る。つまり話を
する能力は、唯一人間が神様から与えら
れた特権だといわれている。

年老いて身体が不自由な人、病やケガ
に苦しむ人、孤独な人、障害を持つ人等
世の中には数多くの悩める人がいる。

この人達に対して、温かい言葉、優し
い言葉、慰めの言葉をかけることによつ
て、これを聞いた当人たちは、それぞれ
安らぎを感じて、元気づけられ喜びを感
ずる等、言葉には、不思議な力が潜在し
ている。

しかし、言葉にはプラスとマイナスの
両面があることを忘れてはならない。子
供の頃から「病は口より入り、災いは口
より出ず」と教えられている。

前半の「病は口より入り」の方は、自分
の健康、病気、ひいては死につながるこ
とだから誰しも常に細心の注意を払って
いる。しかし、後半の「災いは口より出



言葉

更木支部長 大里 重雄

「ず」の方は割と関心が薄いようである。
人間誰しも聖人、君子ではない限り、好
きな人もあれば、嫌いな人、虫の好かぬ
人もあるのは当然である。その嫌いな人
に対して、日常生活の中で、知らず知ら
ず、つい陰口、悪口、中傷等の言葉が出
やすいものである。それが後日、思わぬ
災いとなって、悪口をいった人に降りか
かるという教えだろう。

戦後間もなく総理大臣になった吉田茂
が、国会で相手の質問に対して「バカヤ
ロー」と怒鳴りつけたため、国会解散(通
称バカヤロー解散)という一大事を引き
起こしたことは、世間によく知られている。
外国の諺に「言葉は神なり、ゆえに、
すべての者を動かす」というのがある。
言葉をプラスの面に活用されることは
誠に結構だが「災いは口より出ず」とい
う後半の教えもお忘れなく。



| 3月 | 2月 | 1月 | 12月 | 11月 | 10月 | 9月 | 8月 | 7月 | 6月 | 5月 | 4月 |
|--------------------|--------|-----------|-----------------------|------------|--------------------|-------------------------------|---------------------------------------|--|---------------|----------------------------|--------------------|
| 役員総会 年間活動経過報告 会計報告 | 第1回役員会 | 社協更木だより発行 | 6(土)福祉座談会(近隣ケア)19時00分 | 歳末助け合い共同募金 | 市民運動会 岐阜県社会福祉大会 | 3(水)古希の賀 7(日)第21回福祉フェスティバル | 8(金)親子ふれあいの会 (映画会)19時00分 第2回役員会 | 15(水)高齢者健康づくり教室 (地域介護と予防講習会)13時30分 社協更木だより発行 | 講習会(介護保険について) | 21(水)役員総会 19時00分 日赤社員募集 | 15(火)第1回役員会 18時30分 |

平成十五年年度 年間活動計画

平成14年度 事業報告

| 月日 | 事業経過と活動内容 | 場所 |
|-------|--|-----------|
| 5/21 | 社協更木支部役員総会 | 稲羽西福祉センター |
| // 28 | 社協更木支部役員会 14年度事業計画作成 | |
| // 30 | 社協更木支部福祉推進委員会 合同会議 | 総合福祉会館 |
| 6/12 | 福祉座談会(民生委員) | 稲羽西福祉センター |
| // 26 | 高齢者健康づくり教室 | 同上 |
| 7/17 | 地域介護講習会 | 同上 |
| // 18 | 自治会連合会長 民生児童委員 地区長社協支部長 合同会議 (福祉フェスティバルチャリティーバザー) | 総合福祉会館 |
| 8/8 | 親子ふれあい人形劇(中屋支部と合同) | 稲羽西福祉センター |
| // 31 | 更木だより発行 | |
| 9/18 | 福祉座談会(ヘルパー) | 稲羽西福祉センター |
| // 25 | 自治会連合会長 民生児童委員 地区長社協支部長 合同会議 (共同募金 県社会福祉大会) | 総合福祉会館 |
| 10/23 | 岐阜県社会福祉大会(表彰式 記念講演) | 長良川国際会議場 |
| 11/7 | 福祉のまちづくりフォーラム | 同上 |
| // 9 | つつじ苑 慰問(更木支部) | つつじ苑 |
| // 23 | 各務原市社会福祉大会(表彰式 人生100年夢プラン) | 市民会館 |
| 12/11 | 福祉座談会(近隣ケア) | 稲羽西福祉センター |
| 2/15 | 更木だより発行 | |
| 3/29 | 社協更木支部役員総会 | 稲羽西福祉センター |

平成15年度 社協更木支部役員名簿

| 役職名 | 氏名 | 備考 |
|------|-------|--------|
| 支部長 | 大里 重雄 | 自治会長 |
| 副支部長 | 多和田賢次 | 〃 |
| 顧問 | 安田 隆男 | 連合自治会長 |
| 推進委員 | 杉山 秀子 | 民生児童委員 |
| // | 多和田昌明 | 〃 |
| 会計 | 岩井 正夫 | 〃 |
| 監事 | 坪内 伸代 | 〃 |
| // | 中村 篤子 | 〃 |
| 理事 | 岩田 詩朗 | 自治会長 |
| // | 岩井 幹彦 | 〃 |
| // | 森 学 | 〃 |
| // | 安江 多輔 | 〃 |
| // | 祖父江 滋 | 〃 |
| // | 奥村 憲和 | 〃 |
| // | 佐野 佳幸 | 〃 |
| // | 太田 一郎 | 〃 |
| // | 尾関 元二 | 民生児童委員 |
| // | 宮崎 博邦 | 〃 |
| // | 安田 啓子 | 主任児童委員 |
| 評議委員 | 宮崎 和美 | 近隣ケア長 |
| // | 間宮 一枝 | 〃 |
| // | 武藤 美幸 | 〃 |
| // | 洞山百々枝 | 〃 |
| // | 多和田茂子 | 〃 |
| // | 鹿島田稜子 | 〃 |
| // | 安田恵美子 | 〃 |

6月16日

介護保険講習会の開催 受講生から大きな拍手わく

六月十六日午後七時から、稲羽西福祉センターで、生活支援センターさくら代表の三和ゆきさんを講師として講習会を開きました。つづいてホームヘルパーさん三人の現場報告、最後に三和皮フ科三和敏夫先生による、前立腺ガンに関するお話でした。

三和講師の話では、各務原市内の介護保険適用者の状況は施設利用者五〇四人、在宅利用者一、二三四人

で、高齢者の約八%あとの九十二%は健康な方と思われる。

もし介護が必要な場合には、市役所が、介護支援センターに、電話連絡してもらえれば手続をとります。

その場合一つの条件がある。

それは日ごろから、内科または整形外科等のかかりつけのお医者さんがいることです。

つきにホームヘルパーさんの現場報告。

Aさんの話 体の不自由な方で、日頃寝床の近くにポータブルトイレを置き、用を足しているのに、その日は間に合わず寝巻きやふとんを汚したところへ、たまたま訪問して早速汚物の始末をし、風呂を沸かし、体を洗って寝かせたが、始末する私より、汚した本人はさぞつらかったであろうと思ひやる優しさ。

Bさんの話 雪降りのため自動車に乗れず徒歩で介護者宅を訪問した

が、積雪のために靴は勿論靴下、ズボンまで濡れて、足腰が冷えていたにもかかわらず、訪問先の老人が、こんな日にもよく来てくれたと笑顔で迎えてくれたので、寒さも苦にならなかつた。

このようなヘルパーさんの目に見えない御苦労に対し、ただ頭の下がる思いでした。

最後に三和皮フ科三和敏夫先生から、現在全国的に関心が高まっている、高齢者男性の前立腺ガンについて、早期発見のために血液検査が有効であり、早期発見・早期治療すれば高い確率で完治できるというお話がありました。



親子ふれあいの会「福祉映画とインドの文化」



同時上映「モジャ公」

友達さそって見に来てね!

この映画は四肢性マヒという障害のためにいやがらせを受けながらも、次第に勇気を持って生き抜いていく新ちゃん（土田新一）の姿とおして、何が人と人との真のつながりをつくるかを描いた作品です。

◎日時 8月8日(金) 午後7時～

◎会場 稲羽西福祉センター (入場無料)

インドの文化について、福祉映画の上映

☆インドの文化に触れてみよう☆

市の広報紙でも紹介されたインド出身の市職員、カルガオンカル・スルピさんが、南インドの古典舞踊「パラタナティムアム」などのインド文花について語っていただきます。



予算(H15)と決算報告(H14)

| [収入の部] | | | | |
|----------|---------|---------|------|--|
| 科目 | 15年度予算 | 14年度実績 | 予 算 | |
| 1 前年度繰越金 | 126,026 | 112,568 | | |
| 2 社協交付金 | 221,000 | 221,000 | | |
| 3 市社協助成金 | 285,000 | 285,286 | | |
| 4 雑 費 | 5 | 5 | 預金利息 | |
| 合 計 | 632,031 | 618,859 | | |

| [支出の部] | | | | |
|--------------|---------|---------|--|--|
| 科目 | 15年度予算 | 14年度実績 | 備 考 | |
| 1 地域活動費 | 60,000 | 60,000 | 稲西体振 40,000 千日参り 5,000 三世ふれあい 5,000 北町盆踊 5,000 更木遺族会 5,000 | |
| 2 各自治会助成金 | 107,000 | 107,000 | 多町内子協会近隣ケア 体育関連 活動費 | |
| 3 機関誌発行費 | 130,000 | 103,112 | 7月、2月 更木だより発行 | |
| 4 いきいきサロン事業費 | 150,000 | 150,150 | 各単位活動に 対する助成金 | |
| 5 メニュー事業費 | 30,000 | 27,380 | | |
| 6 会 議 費 | 45,000 | 43,161 | | |
| 7 事 務 費 | 5,000 | 2,030 | | |
| 8 13年度より 繰越金 | | 126,026 | | |
| 9 予 備 費 | 105,031 | | | |
| 10 合 計 | 632,031 | 618,859 | | |

みなさんの身近な地域での福祉活動 ふれあいきいきサロン 紹介コーナー

いきいきサロン土筆会 外出ふれあい

三井東町

中村 篤子



5月29日に、今年度1回目の外出ふれあいをしました。

昨年好評だった、パターゴルフ大会を9時30分～13時の予定で、リバーサイド21で実施。

当日は薄曇りで、少し風もある好天に恵まれ、チーム分けは、いつもの様に、高齢者、BGの全体を三角くじで決め、チームリーダー（記録係）は率先してやって下されます。

プレーに夢中になり、心地良い汗をかき、お昼は公園に移動して、用意してもらったおにぎり等をいただき乍ら、成績発表をし、高齢者の頑張りに拍手です。

「体調が良くないのでプレーはしないよ」と言う方々も喫茶室でグリーンを眺めていただき、外の空気に触れてもらいました。

皆さんの健康と事故防止を願い、次の三点に気をつけて行ってきました。

- ◎帽子着用
- ◎水分補給（肩掛け用の袋をつくってペットボトルを各自に配布）
- ◎送迎サービス補償の保険加入



三井北町にも、いきいきサロンを作ろうと準備と運動に、月・日がかりでしたが、やっと平成十五年六月三日に発足の運びとなりました。発会式は、偶然にも友引です。これは、友から友へと多くの会員が集まって下さる最高のお膳立てを感じました。

発会式には、市長をはじめ沢山の皆さんに盛りあげていただき全員でクッカーを鳴らし、会の第一歩を祝いました。

つつじ苑の上の皆さんのウクレレで楽しく歌い社協介護支援センターの小林さんに血圧測定と健康相談でメデイカルチェック・自己管理への助言をしてもらい、その間メンバーによるラジオ体操、頭の体操で「七つのましがい探し」に挑戦、午前中の予定、無事クリアして昼食、皆で、おにぎりとお汁で快い満腹感、そして少しの休憩。

午後からゲームで玉入れ・総合せ・スプリンでの鈴渡し、と、チームごとで協力しての競技、その後、皆さんの協力で「各務原音頭」を輪になって踊る。

二時半より、ティータイム、皆さん世間話に花が咲き、三時過ぎ閉会。「大変良い会を作ってくれてありがとう」と、とても嬉しそうに帰って行く姿を、玄関まで送り、次回も又あの笑顔をお待ちしたい。



- ◎今回の出席者数は
- ・会員さん：二十九名
- ・ボランティアさん：十六名
- ・つつじ苑さん：三名
- ・社協さん：二名
- ・市長
- ・社協更木支部長

三井北町みどりの会発足

鹿島田 稔子

無理なく長く続けられるよう進めて行きます。

今回、高齢者の方だけでなく小さい子供さんづれで来ていただけ、若い人がいた事で私達の目的としているサロン活動の一步が踏み出せたと思えました。

みんなであそぼまいか会 笑顔の輪



小佐野町

副代表 太田 美代子

私達の町内にいきいきサロン「遊ぼまいか」と云う名の高齢者と、ボランティアの集う会が結成されて早いもので四年目の春を迎えました。

「おばあちゃん、明日は「遊ぼまいか」よ。きてネ」「楽しみにしているでなあ…」

月二回の「遊ぼまいか」へ西から東からと、三三五五町内の中心にある集会所へ集って見える高齢者の人、或る人は杖を介添えにして、元気な姿で朝の挨拶が始まり集会所は賑やかになります。一人二人三人の心が一つの大きな輪になって、ほほ笑みを貰い、小さな元気が大きな元気となり寝たきりゼロを目指して励ましつつ会を進めて参りました。

お陰様で三年間の中に思わぬ病いに倒れられたお年寄りでも現在は体の方も徐々に快復され「遊ぼまいか」にお顔を見せて頂き、私達一同すばらしい本人の気力に心から応援をし喜んでます。

高齢者社会になり、日本の津々浦々まで高齢者対策である手、この手の報道で勉強させ励ましてくれます。

幸いに「遊ぼまいか」の会にもつつじ苑と生活支援センターさくらからの暖かい応援を頂いております。回を重ねる度に珍しい企画で「今日は何の遊びかな」と、お年寄りの人の眼も生き生き輝いてきました。

又、一回一回の会が無事進められることは、民生委員の太田さん始め、蔭乍ら暖かい応援をして下さる関係者の皆様や、地域の方々のご支援の賜ものと深く感謝いたします。又「遊ぼまいか」のボランティアの方々陰になり日向になつたりしての活動、そして特にお年寄りの方々が笑顔で参加出来る様努力されている姿は有難いことと感謝いたします。一回一回重ねる毎に、私達の「遊ぼまいか」も、より一層の温もりとやすらあぎのある会に育って行くことを願いつつ、私達ボランティア全員務めさせて頂きたいと念じております。

